

WG:SSR 議事録 2019/07/10

参加者：五島、袴田、高木、胡谷、本木、奥村、白鳥、栗原（敬称略）

○今後の SSR について（存続に向けて）

・ PT、OT、ST の定期的な集まりが大前提→情報発信が課題。参加者が決まったメンバーだけにならないためには様々なセラピストに届かせる必要があるのでは？

・ そのためには定期的に集まるメリットを作る必要がある。

→具体的な案を相談していきたい

・ 五島先生：症例発表をどんどんやっていくことが良いのではないかと？年一くらい担当で？

・ 袴田さん：姿勢改善による嚥下障害だけではなく、食動作など食事に関することなら良いのではないかと？発表のテーマを考慮し、それに向けて調べてきて共有、発表していく。

・ 栗原：成功ケースだけではなく、失敗ケースでも一つの形にまとめて発表して良いと思う

・ 症例報告を重ねる過程で写真などが蓄積できた時には本のようにまとめても良いのではないかと？

・ 症例相談窓口のチラシを作ったが、それは継続で良いのではないかと。

・ 相談窓口は？→新宿在宅になっている

・ 6月の勉強会でヘルパーより相談があった。実際に行おうとするとどのような流れになるのか？→ツイッターやライン？

・ 厚生労働省の個人情報に関する ICT ガイドラインがあるため、安易な個人情報のやりとりの制限は必要と思われる

・ 問い合わせフォームを 100 文字程度、1 クエスチョンなど制限をかけることで個人情報の制限はできる？→対応の無料サービスと有料の線引は意識することが必要

・ 問い合わせをする方々にアンケートをしてみるのも手だろうか？

・ 相談したいけど、急に来てもらうことはハードルが高く、壁がある。フローチャート式の手引きのような物があると実践をして、それで上手くできなかった場合に相談するなどのステップが踏めると取り組みやすいという意見がケアマネより上がっていた。

・ ケアマネ経由の相談と、ケアマネ以外経由の相談ルートを整理する必要がある。

・ 下を向いている人にそのまま食べさせていいのか？など気楽につぶやき程度の相談ができる窓口を作ってもいいのでは→MedicalCareStation (MCS) の紹介

症例発表：20 分発表 40 分ディスカッション 基本はスライドを用いる

USB を持ち込みプロジェクターで写す

・ 症例発表の順番を決めていく 次回 9 月 4 日

9 月担当：本木さん

10月担当：

11月担当：袴田さん